

1. 地域の特徴



- ・人口：42,751人（東京23区の0.4%）
※2022年11月1日現在住民基本台帳
- ・2005年3月31日に9つの町村が合併して誕生
- ・総面積は828km²（東京23区の130%、岡山県の11.6%を占める）
- ・広域で多彩な資源が豊富
- ・面積の79.2%を森林が占める典型的な中山間地
- ・林業・木材産業が盛んで日本有数の木材集散地
- ・木質バイオマスや木材利用（CLT活用等）推進

2. 応募のきっかけ

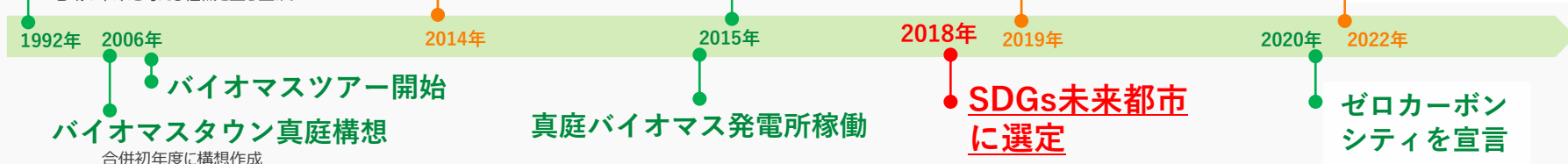
真庭市は、第2次総合計画に掲げた「真庭ライフスタイル（多彩な真庭の豊かな生活）」の実現を目指し、地域資源を活用して、喫緊の課題である人口減少に対応するため、すべての施策を人口減少対策につなげ持続的に発展するために、従来から以下の取組を進めてきた。

- ①森林資源をはじめ再生可能エネルギーによる地域内循環（環境）
- ②川上・川下の連携など、地域内外の人のつながりづくり（社会）
- ③地域内外での資源循環やつながりをお金に換える「回る経済」づくり（経済）

これらが、国連が採択したSDGsの理念と一致していたことから、SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業に応募することとした。

21世紀の真庭塾

● 地元の若手経営者等が集まり、地元地域の未来を考える組織を立ち上げ。



3. 取組の内容と成果

林業木材産業・バイオマス産業による経済・社会・環境を繋ぐ地域システムのノウハウを基に、地域分散型モデルの形成へ向け、市民を巻き込み地域資源を活用した、新たな地域経済構造の定着を目指し、次の事業を推進。

①「木を使い切る真庭」事業

- ・木質バイオマスエネルギー利用やCLT等木材利用の推進

【木質バイオマス発電事業】

- 売電収入23億円
- 燃料購入14億円
- 関連雇用者数50人
- 公共施設83施設以上で電力利用

→ **エネルギー自給率：62.3%**

【CLT事業の展開】

三菱地所・隈研吾建築都市設計事務所と連携し晴海からCLT建築物を移築

→ **「GREENableHIRUZEN」としてR3.7月に施設Open**

1年で17.5万人来場



CLTとは、Cross Laminated Timberの略称。欧州で発達し、中層住宅の材料として使用されている

②「有機廃棄物資源化」事業

- ・生ゴミの資源化による液肥活用の推進

【生ゴミ資源化（メタン発酵及び液肥化施設整備）】

→ **2024年度稼働開始へ向け詳細設計完了**



③「行ってみたいくなる、住んでみたいくなる」事業

- ・着地型観光（バイオマスツアー真庭）の推進

【市内SDGsツアー開発】

- ・市民向けのSDGs関連施設の見学を行う市内SDGsツアーを創出

→ **ツアー利用団体34件、2,019人（R3年度）**

広域連携によるSDGs体感ツアーの創出へ展開



4. 選定されてよかったこと

- 「SDG s 未来都市」の選定により、真庭市が次に目指す方向性を内外へ啓発
- SDG s を共通言語に市民の合意形成（真庭SDG s 円卓会議の開催など）
- 世代等を超えての意見交換の場創出
- 各種メディアへの掲載等による情報発信
- 官民間わらず連携等のアプローチが増加
- 企業版ふるさと納税のPRへ活用
- 市役所職員の意識改革（統合的な考え方、国際的視点など）
- 真庭SDG s パートナー制度導入により企業・団体等の共通認識
- SDG s 未来都市同士での情報交換・連携促進
- 都市部等へのプロモーション力強化



5. 困難やつまづきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

【課題】

- SDG s の言葉の浸透
- SDG s の理念の共有
- 様々な部署からの情報収集・連携構築
- 職員意識の改革
- 市役所内部、地域内等の合意形成
- SDG s の取組を身近に感じてもらうため

【解決策】

- SDG s についてローカルテレビや広報誌等で継続的に普及啓発、市役所でのSDG s の見える化
- 真庭SDG s 円卓会議及びSDG s ミーティングを通じた市民への普及啓発（高校生の参画含む）
- 国の方針を踏まえ、総合計画及び総合戦略見直しの際に理念及び横断的な取組として位置づけ
- 予算編成の際に関連ゴールを紐付け、職員のSDG s 宣言実施、部局ごとの取組状況公表
- テーマや進捗状況を共有し展開検討を官民連携で実施、国際会議での発信状況の共有
- 市内小中学校・高校等での出前講座を地域事例を含め実施（SDG s パートナーも講師へ招聘、SDG s スタートブック作成など）

※SDG s 専用ページ：<https://www.maniwa.city/1/sdgs/>

6. 今後の展開

【木質バイオマス利活用】

- ・新たなエネルギー利用等の展開へ向け、資源確保を含め、**広葉樹活用の検討**を実施
- ・脱炭素先行地域選定で再生可能エネルギーの利用を加速

【生ごみ資源化事業】

- ・本格プラント稼働へ向け順調に推進中（2024年度本格稼働）
- ・液肥化において、**濃縮技術を採用し配送の効率化**を検討

【官民連携の推進】

- ・真庭SDGs円卓会議の継続実施：個々のアクション及びパートナーシップ構築へ繋げる
- ・SDGsミーティングの継続実施：真庭版SDGs行動リスト作成（円卓会議で発表予定）

【SDGs × 観光】

- ・岡山県内の**SDGs 未来都市と連携し、「SDGs 体感ツアー」**を構築
 ※詳しくはURLまたはQRコード参照
 ⇒ <https://www.maniwa.or.jp/web/?c=tour-2&pk=78>
- ・各種広域連携での取組を推進（情報交換、イベント連携など）



SDGs 未来都市 真庭市・岡山市・倉敷市・西粟倉村を巡る

SDGs 体感モニターツアー

MANIWA NISHI-AWAKURA
KURASHIKI OKAYAMA

モニター価格・お一人様（大人・小人同額）

12/1 ¥3,500 岡山県・倉敷市	12/2 ¥3,500 真庭市・真庭市	12/10 ¥3,500 倉敷市・真庭市	12/14・15 ¥15,000(2) 4人 ¥19,800(3) 5人以上
---------------------------	---------------------------	----------------------------	--

主催・お問合せ 一般社団法人真庭観光局 0867-45-7111
 ■お申込み 再編バスフレズバック 086-270-1515
 ■WEB申込 下記のQRコードからアクセスしてお申し込みください！

参加条件
 モニターツアーアンケートにご協力いただける方
 新型コロナウイルス感染症対策にご協力いただける方
 モニターツアー中の設備写真・映像撮影・印刷物及び
 ホームページ等での使用がある旨をご承諾いただける方

※モニターツアーは、岡山SDGs未来都市推進協議会より委託して実施しています。
 （内閣府「広域連携SDGsモデル事業」補助金活用事業） 全国旅行支店はご利用になりません。

7. 他地域への展開等

- ・広域連携のSDGs体感ツアーの構築により、SDGs 達成へ向けた地域の取組について裾野拡大を期待。
- ・SDGs 関連視察等は新型コロナウイルスの影響によりオンラインによるヒアリングやWebメディアへの掲載等が増えており波及効果を期待。
- ・真庭SDGs パートナー制度について、「円卓会議」や「ミーティング」といった次の展開に係わる問い合わせ等が増加している。
 ⇒視察・講演等：15件（津山市JC、武庫川女子大学など）、メディア掲載：7件（RSKメッセージ、サーキュラーエコミーなど）

8. その他

SDGs の理念を活かし、持続可能な地域づくりへ向けた新たな仕組みとして、
真庭市デジタル地域通貨「まにこいん」のサービス構築へ向け準備中

地域金融機関、商工会、行政と連携し、地域関係団体も参画のうえ、
真庭市デジタル地域通貨「まにこいん」のサービス構築を図るため取組を推進中。
「まにこいん」は、真庭市内のお店や市役所窓口などで利用できるオリジナルの電子地域通貨で、
「市民ポイント」の活用もあわせて検討中。
地域経済循環、地域貢献活動の促進、市民サービスの向上などへ繋げる。



「SDGs ポイント」検討
→SDGs な行動への動機
付けや見える化



- ・ステークホルダー（地域金融機関、商工会、真庭市）との協定締結(6/29)
- ・運営コンソーシアム（協定締結4者に加え、福祉・観光・情報分野の団体参画）設立(9/20)
⇒通貨名称を「まにこいん」、通貨単位を「まにい」、ロゴ等決定

令和4年度内に、
基盤実装・プレオープン予定